

公益財団法人 J R 西日本あんしん社会財団
平成 28 年度 事業報告
(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)

I 事業概要

平成 28 年度事業計画に基づき、地域連携をより強く意識しながら、安全で安心できる社会の実現に資する事業を多面的に推進してきた。

1. 心身のケアに関わる事業

(1) グリーフケアに関わる人材養成講座への助成（上智大学グリーフケア研究所人材養成講座）

誰もが安心して悲嘆等に伴うこころのケアを受けられる社会を目指し、グリーフケアに関する専門知識・技能を持って実践に携わる人材や地域社会においてグリーフケアを提供する市民ボランティアを養成している上智大学グリーフケア研究所の人材養成講座に対し、寄付助成を行っている。

2 年制課程の「グリーフケア認定課程・基礎コース」に 20 名、「同・臨床コース」に 12 名が新たに入学し、また、平成 27 年 4 月に入学した受講生のうち、基礎コース 7 名、臨床コース 11 名が平成 29 年 3 月に修了した。

(2) 心身のケアに関する啓発活動

①連続講座「『いのち』を考える」の開催

死と悲嘆、グリーフケアをはじめ、多種多様な観点から「いのち」に焦点をあて、ともに考える連続講座を開催した。

・第 11 回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、時間：18:30～20:00）

参加者数：延べ約 2,700 名

日付	講師	
4/28(木)	養老 孟司	東京大学名誉教授
5/12(木)	鳥越俊太郎	ニュースの職人
5/19(木)	藤田 和子	NPO 法人若年性認知症問題にとりくむ会・クローバー副理事長
5/26(木)	大前 光市	プロダンサー
6/ 2(木)	広野 ゆい	NPO 法人 DDAC（発達障害をもつ大人の会）代表
6/ 9(木)	倉田 めば	薬物依存リハビリテーション・センター 大阪ダルクディレクター

・第 12 回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、時間：18:30～20:00）

参加者数：延べ約 2,800 名

日付	講師	
10/11(火)	柏木 哲夫	淀川キリスト教病院理事長
10/18(火)	高木 慶子	上智大学グリーフケア研究所特任所長
10/25(火)	小林玖仁男	国登録有形文化財「二木屋」主人
11/ 1(火)	森 清範	清水寺貫主
11/ 8(火)	沼口 諭	医療法人特養会 沼口医院理事長（真宗大谷派僧侶）
11/15(火)	清水 俊彦	東京女子医科大学脳神経外科客員教授

・第13回連続講座 開催概要（会場：毎日新聞オーバルホール、時間：18:30～20:00）

参加者数：延べ約2,700名

日付	講師	
1/24(火)	藤井 理恵	淀川キリスト病院 チャプレン（病院牧師）
1/31(火)	田村 里子	一般社団法人 WITH 医療福祉実践研究所 がん・緩和ケア部 部長
2/ 7(火)	末永 和之	すえなが内科在宅診療所院長
2/14(火)	細井 順	公益財団法人近江兄弟社ヴォーリス記念病院ホスピス長
2/21(火)	米虫 圭子	京都産業大学学生相談室主任カウンセラー
2/28(火)	田村 恵子	京都大学大学院医学研究科教授、がん看護専門看護師

② 「いのちのセミナー」の開催

「いのち」をテーマとした講演を通して、自らを見つめ考える機会を広く提供できる場として開催した。

<開催概要>

日時：平成29年1月15日（日） 13時30分～15時00分

場所：松下IMPホール

内容：「いのちを尊ぶ社会をめざして」

尾木直樹（尾木ママ） 教育評論家、臨床教育研究所「虹」所長

参加者：約700名（応募者：2,194名）

2. 地域社会の安全構築に関わる事業

(1) 「安全セミナー」の開催

東日本大震災以降、あらためて災害に対する備えと対応の重要性が社会的に認識されたことに加えて、昨今多発する自然災害や異常気象を受け、ますます関心が高まっている「防災」をテーマに、事業者・市民・行政等地域社会の安全に関する啓発活動として開催した。

<開催概要>

日時：平成28年9月16日（金） 14時30分～16時30分

場所：松下IMPホール

内容：「命を守るためのそれぞれの危機管理～その前に、そしてその時、すべきこと～」

山村武彦 防災システム研究所所長

参加者：約680名（応募者：961名）

(2) 救急フェア、駅で体験AEDの開催

駅ご利用者をはじめ地域住民の方々に手軽にAEDの使用や心肺蘇生法、駅ホームや踏切の非常ボタンなどを体験していただくことで、広く市民による初期対応や初期救護（ファーストエイド）の重要性を啓発し、ひとりでも多くの「いのち」を救えるよう、JR西日本や消防、NPO、地元自治会等と連携・協力し「救急フェア」等を開催した。また、毎月9日にAEDの取り扱い方法の体験に特化した「救9の日 駅で体験AED」を実施した。

	開催回数	参加者数	うちAED等体験者数
救急フェア	12回	約3,600名	約1,200名
救9の日 駅で体験AED	12回	約900名	約700名
非常ボタンキャンペーン でのAED体験	1回	—	約20名
普通救命講習	1回	約100名	約100名
計	26回	約4,600名	約2,020名

(3) AED訓練器等の助成による救命処置の普及啓発

救命処置の普及を進めるべく、救命処置の普及啓発活動を積極的に行う団体を公募し、AED訓練器・訓練人形を助成した。

	学校	その他	計
応募件数(セット)	2(6)	16(37)	18(43)
助成件数(セット)	1(3)	8(14)	9(17)

3. 「安全で安心できる社会」の実現に関わる事業

(1) あしなが育英会への助成

事故や災害、病気等様々な理由で親をなくした子どもたちへの心のケア活動の一環として取り組んでいるあしなが育英会主催の「高校奨学生をつどい」及び小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」に対し、寄付助成を行っている。平成28年度は、関西地区における「高校奨学生をつどい」が8月7日から12日まで、総勢270名の高校奨学生及びリーダー役・運営スタッフの先輩奨学生たちが参加し開催された。また、小・中学生を対象とした「キャンプのつどい」が8月21日から23日まで、総勢57名の子どもたち及び学生ボランティアが参加し開催された。

(2) 関西いのちの電話及び神戸いのちの電話への助成

福知山線の沿線地域で市民からの電話相談事業に取り組んでいる関西いのちの電話及び神戸いのちの電話における電話相談員のスキルアップやメンタルケアに関する活動に対し、寄付助成を行っている。平成28年度は、繰り返し何度も電話をかけてくる、いわゆる「頻回者」への対応についての研修等が実施された。

(3) 地域における各種活動等に対する支援協力

当財団では上記のほか、財団の設立趣旨に合致し公益性や社会的必要性が高いと認められる活動に対し協賛を行っている。

- ① 京阪神に拠点のある遺族会が、個々の遺族会のレベルアップを目指して実施する勉強会を盛り込んだ交流会の開催に対し、協賛を行った。
- ② 一般財団法人日本AED財団による、学校教育を基盤に全ての国民が心肺蘇生教育を受けることのできる環境整備を目的とした、小学校安全教育副読本の作製に対し協賛を行った。(210校に配付)

4. 公募助成事業

(1) 「平成 29 年度公募助成（活動及び研究）」の実施（募集、審査、決定）

当財団では、設立初年度より、事故・災害に対する備えやその後のケアに関連する活動・研究を対象とした公募助成を実施している。

平成 28 年度は、平成 29 年度に行われる活動や研究を対象とした助成事業の公募を実施した。応募件数 152 件について審査した結果、59 件、5,112 万円の助成を行った。採択率については 39%となった。

平成 29 年 3 月には、助成対象団体や研究者を対象に贈呈式を開催するとともに、助成先相互のネットワークづくりを目的に交流会を実施した。

	応募件数	助成件数	金額
活動助成	68 件	32 件	1,854 万円
活動助成（特別枠）	26 件	13 件	887 万円
研究助成	58 件	14 件	2,371 万円
計	152 件	59 件	5,112 万円

(2) 第 6 回公募助成成果発表会

助成活動の成果の社会的還元や助成先同士の交流などを目的に、平成 27 年度に実施された助成活動及び研究の成果発表を行う「成果発表会」を開催した。

<開催概要>

日 時：平成 28 年 7 月 31 日（日）

[発表会] 13 時 30 分～16 時 30 分（ステージ発表）

[交流会] 16 時 45 分～18 時 00 分（ポスター発表含む）

場 所：ホテルグランヴィア大阪

発表者：47 組（ステージ発表＝7 団体・研究者 3 名、ポスター発表 37 団体）

参加者：約 120 名（発表団体・研究者、聴講者、役員、スタッフ）

II 財団運営に関わる事項

1. 機関運営（評議員会、理事会、事業審査評価委員会の開催）

(1) 評議員会

開催回数：1回

決議事項等：平成27年度計算書類等の承認、評議員及び理事の選任 等

(2) 理事会

開催回数：4回

決議事項等：業務執行状況報告等のほか、以下の事項について決議を行った。

平成27年度事業報告及び計算書類等の承認、評議員会の招集、「いのち」をテーマとする講演会の実施方針の承認、「上智学院、あしなが育英会、いのちの電話」への助成の承認、「平成29年度公募助成（活動及び研究）」の採択決定の承認、平成29年度AED訓練器等助成事業における採択決定の承認、平成29年度基本財産の運用基本方針の承認、平成29年度事業計画及び収支予算の承認、平成30年度公募助成（活動及び研究）の基本方針の承認 等

(3) 事業審査評価委員会

開催回数：3回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成27年度助成事業の実績・成果等の確認評価、平成29年度公募助成（活動及び研究）の内容及び方法に関する指導・助言、平成29年度公募助成（活動及び研究）の選考、平成29年度助成先の審査 等

(4) AED訓練器等助成事業審査委員会

開催回数：2回

審議事項等：理事長からの諮問に基づき、以下の事項について審議を行い、理事長へ答申を行った。

平成27年度AED訓練器等助成事業の実績・成果等の確認評価、平成29年度AED訓練器等助成事業の内容及び方法に関する指導・助言、平成29年度AED訓練器等助成事業助成先の選考 等

2. その他

(1) 基本財産の運用

基本財産20億円は、西日本旅客鉄道株式会社の無担保社債（20年物）により10億円、国債（20年物）により10億円を継続して運用した。

(2) 広報活動及び情報公開

当財団のホームページにおいて、財務資料等の基本情報の開示や財団事業の実施概要、実施結果等の公表を行った。また、事業実施時におけるプレス発表のほか、JR主要駅へのポスター・パンフレットの掲出、財団紹介用パンフレットの製作・配布、広報誌「Relief」の発行（平成28年4

月、7月、10月、平成29年1月)に加え、財団Facebookを開設したほか、平成29年度公募助成の募集にあわせた広報(行政窓口、大学及び中間支援団体等訪問)を行うなど、財団事業の認知度向上のための広報活動を実施した。

(3) 報道実績

- ・NHK(5/21・奈良放送局・昼ニュース)「5/21・奈良駅救急フェア」
- ・毎日新聞(5/22・奈良版・地域22面)「5/21・救命処置 親子で体験 奈良駅前広場で救急フェア」
- ・毎日新聞(5/22・ネット掲載)「5/21・救命処置 親子で体験 奈良駅前広場で救急フェア」
- ・ケーブルテレビ(5/28)「5/28・高槻駅救急フェア」
- ・京都新聞(7/15・朝刊・情報ワイド21面)「9/1・京都鉄道博物館で救命講習の開催」
- ・読売新聞(7/27・朝刊・社会面)「7/30・脱線事故で夫犠牲 宝塚の原口さん 広島土砂災害被災地でコンサート」
- ・朝日新聞(7/27・朝刊・社会面)「7/30・前向ける日 きっと来る 宝塚線脱線事故で夫亡くした女性～土砂災害の広島で追悼講演・演奏」
- ・読売新聞(7/29・朝刊・大阪市、摂津、河内、京阪版 地域32面)「9/16・安全セミナーの開催」
- ・ABC朝日放送(8/25・夕情報番組)「7/30・土砂災害の広島で JR脱線事故の遺族 追悼の歌」
- ・京都新聞(9/1・朝刊・情報ワイド21面)「11/3・大阪駅でいのちのリレー大会の開催」
- ・NHK(9/1・京都放送局・夕ニュース、夜ニュース)「9/1・防災の日にあわせて AEDで救命講習会」
- ・KBS京都(9/1・夕ニュース)「9/1・AED講習会 in 鉄博 防災の日」
- ・ABC朝日放送(9/9・昼ニュース)「9/9・9月9日は『救急の日』 『救急の日』にあわせAEDを使った心肺蘇生法を学ぶイベント JR天王寺駅」
- ・中国新聞(9/16・朝刊・社会31面)「広島土砂災害も助成 JR西の財団 広島の対象団体募集へ」
- ・熊野新聞(11/16・朝刊・1面)「11/12・防災、地域学習列車を試行 修学旅行、商品化も視野に」
- ・和歌山経済新聞(11/18・web版)「11/12・JRきのくに線で防災教育列車『鉄學』試行」
- ・中日新聞(1/16・信州版・社会24面)「1/15・軽井沢バス事故1年～教え子失った尾木さん」
- ・信濃毎日新聞(1/16・社会面)「1/15・悲しみもう二度と『寄り添う気持ち 大事』ゼミ生犠牲 尾木さん」
- ・中国新聞(3/24・朝刊・社会27面)「広島の4団体に助成 JR西の財団 土砂災害支援」
- ・神戸新聞(3/27・朝刊・社会27面)「AED訓練器を寄贈 JR西の財団 市民団体に」